



日本共産党 石田 秀三 議員

- 1 住宅リフォーム助成制度について
- 2 旧海軍格納庫の保存・活用について
- 3 国保税の引き下げについて

質問1 住宅リフォーム工事を地元の業者・職人に施工してもらった市民に対して、市が助成する制度は全国的に広がり、三重県でも伊勢市が始めるとのことである。鈴鹿市としても新年度の早い時期に制度をスタートさせることを求める。

答弁1 すでに実施している市町等への調査などを通じて、引き続き勉強してまいりたい。

質問2 旧電通学園跡地に残されていた旧鈴鹿海軍航空隊の格納庫3棟が解体されるが、うち1棟が再利用

できる形で残される。この「軍都・鈴鹿」の戦争遺跡をどうするのか、市民の会とNTT、そして市が話し合い、よい結論を出す努力をされたい。



旧海軍格納庫

答弁2 格納庫について、市としては「記録保存」で残していくとの姿勢であり、協議に入るのは難しいが、市民の会との対話は継続していきたい。

質問3 高すぎて払えない国保税を引き下げのために、赤字の国保会計に一般会計からの繰り入れを行なうことをルール化し、市民の負担を軽減されたい。

答弁3 当初予算からの繰り入れは難しいが、年度末の赤字の補填としての繰り入れは行なっている。



すずか倶楽部 中西 大輔 議員

- 1 公共交通について
- 2 まちづくり条例について
- 3 小児救急体制について

質問1 公共交通網整備方針の目指すまちの姿はどのようなものを想定しているか。また伊勢若松駅は市内西部への玄関口となる重要な位置にあるが、バリアフリー化が遅れている。早急に取り組むべきでは。

答弁1 牧田・白子・神戸で囲まれた中央エリアでは3つの拠点の交流を支える公共交通ネットワークの構築を、周辺エリアでは中央エリアに結節するための公共交通網の維持・活性化を、さらには小規模な交通需要に対応できる公共交通システムの構築をめざしている。また、伊勢若松駅のバリアフリー化は重要なことと認識してい

るが改修にあたっては施設管理者との協議をすすめていかなければいけない。

質問2 「みんなで作る鈴鹿まちづくり条例を考える会」の元市民委員に対し説明責任は果たしているか。

答弁2 市としての条例案を策定した後に元委員への説明を考えていたが、内容について慎重な検討を重ねることとなり、その機会を持つことができなかった。しかるべき時期に説明する予定である。

質問3 鈴鹿中央総合病院の小児救急体制が縮小された後の、市の取り組みは。

答弁3 応急診療所を医師会等の協力により充実させ、ゴールデンウィークや年末年始は二診体制で対応している。市民、医師会、行政などが集まり、話し合う場の設置に取り組む。



無所属クラブ 板倉 操 議員

- 1 鈴鹿市の現状をどのように考えるか
 - (1)市民の暮らしは緊急事態では
- 2 緊急に力を入れる点は何と思うか
 - (1)具体的な実行が必要なのでは

質問1(1) 改選を控え4年間を振り返ることは重要である。後半の2年間は「戦後最大の経済危機」と言われる事態で、財政上も恵まれた市として発展してきた鈴鹿市はリーマンショックで大打撃を受けた。その後一向に暮らしは良くなっていない。厳しくなっていくのではと思っている。市民の暮らしは緊急事態なのではないか。打つ手はないのか。

答弁1(1) 製造業中心として発展してきた本市はかつてないほど厳しい状況におかれてきた。市民生活

の根幹に関わる雇用の問題、生活や事業経営への不安等が市民の中に少なからずあることは十分認識している。その声を行政運営に取り入れ、できうる限りの施策を実施していきたい。

質問2(1) 中小企業も新たな事業展開に向けて進みだした事業主もいる。しかし銀行は貸し渋りをし、資金繰りは大変だ。市独自の融資制度等が必要である。また公共事業予算の増額で地域経済を支える市内企業を育成するためにも、予算の適正な履行に留意して、発注、調達等の対象を適切に分離、分割等をして業者の受注機会の増大となるしくみ作りも重要と思うがどうか。

答弁2(1) 国や県の資金支援を柱としてやってほしいと考える。公共事業についても公平と考えている。